

---

# 2009年度 第2四半期決算説明会

---

2009年11月5日



三菱ガス化学株式会社

# 本日の出席者

---

取締役社長

酒井 和夫

天然ガス系化学品カンパニープレジデント

山崎 慶重

芳香族化学品カンパニープレジデント

塚本 耕三

特殊機能材カンパニープレジデント

宮内 雄

機能化学品カンパニープレジデント

倉井 敏磨

財務経理センター長

杉田 克彦

# 本日の進行次第・配付資料

## 進行次第

### 1. 2009年度

第2四半期決算および業績予想

### 2. 質疑応答

## 配付資料

- ・スライド コピー
- ・参考資料
- ・ 2009年度第2四半期決算短信
- ・ ニュース クリップング集
- ・ MGC CORPORATE  
DATA BOOK 2009
- ・ アンケート用紙

# 連結 2009年度 第2四半期実績

【単位:億円】

	2009年度 第2四半期累計	2008年度 第2四半期累計	増減	増減率
売上高	1,808	2,692	▲ 884	▲ 32.8 %
営業利益	▲ 11	96	▲ 107	—
(持分法利益)	(25)	(108)	(▲ 84)	▲ 77.1 %
経常利益	▲ 26	200	▲ 225	—
税前利益	▲ 36	188	▲ 224	—
当期純利益	▲ 24	146	▲ 170	—

➤ 販売数量は、メタノールやフラットパネルディスプレイ向けPCフィルムなど一部の製品を除き、全般に大きく減少。

➤ 販売価格は、原材料価格の下落に伴い、汎用品を中心として大きく下落。

➤ 単体売上高は▲632億円。  
(数量要因: ▲216億、価格要因: ▲416億)

➤ 販売数量の大幅減少とマージン悪化などにより、営業赤字を計上。

➤ 持分法利益も、海外メタノール会社を中心として大幅減益。

➤ 中間配当金は、期初予想比2円減の4円。

D/Eレシオ	0.64	0.51	0.13	25.5%
ROA*	—	3.3%	—	—
ROE	—	4.8%	—	—
1株当たり 中間純利益	▲ 5.4円/株	31.5円/株	▲ 36.9円/株	—
中間配当金	4.0円/株	8.0円/株	▲ 4.0円/株	▲ 50.0 %

※ 本頁以下に記載されている数値は、単位未満四捨五入で表記しております。

\* 経常利益ベース

# セグメント別 連結 2009年度 第2四半期実績



【単位:億円】

	2008年度		2009年度		
	上期	下期	上期	1Q	2Q
<b>売上高</b>	2,692	1,784	1,808	853	955
天然ガス系化学品	880	629	551	256	295
芳香族化学品	793	428	441	220	221
機能化学品	726	539	554	242	312
特殊機能材	357	224	296	150	146
その他	6	5	5	2	2
消去または全社	▲ 69	▲ 40	▲ 39	▲ 17	▲ 21
<b>営業利益</b>	96	▲ 127	▲ 11	▲ 21	10
天然ガス系化学品	9	▲ 57	▲ 42	▲ 35	▲ 7
芳香族化学品	15	▲ 89	▲ 33	▲ 8	▲ 26
機能化学品	31	33	33	9	24
特殊機能材	42	▲ 19	28	12	16
その他	3	2	2	1	1
消去または全社	▲ 4	3	1	▲ 0	1
<b>(参考)</b>					
<b>持分法利益</b>	108	39	25	5	20

# 連結 2009年度 第2四半期 営業外損益・特別損益

【単位:億円】

	2009年度 第2四半期累計	2008年度 第2四半期累計	増減
<b>営業外損益</b>	<b>▲ 15</b>	<b>103</b>	<b>▲ 118</b>
持分法投資損益	25	108	▲ 84
金融収支	▲ 3	▲ 1	▲ 2
為替差損益	▲ 16	6	▲ 22
その他	▲ 21	▲ 10	▲ 11
<b>特別利益</b>	<b>2</b>	<b>-</b>	<b>2</b>
固定資産売却収入	2	-	2
<b>特別損失</b>	<b>▲ 12</b>	<b>▲ 11</b>	<b>▲ 1</b>
減損損失	▲ 5	-	▲ 5
貸倒損失	▲ 4	-	▲ 4
事業撤退損	▲ 3	-	▲ 3
貸倒引当金繰入額	-	▲ 11	11
持分変動損失	-	▲ 0	0

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

# 連結 2009年度 第2四半期 貸借対照表

【単位：億円】

	2009年9月末	2009年3月末	増減	メ モ
<b>流動資産</b>	<b>2,121</b>	<b>2,153</b>	<b>▲ 32</b>	
現預金	206	232	▲ 26	
売掛債権	931	745	185	
棚卸資産	625	653	▲ 28	
その他	359	523	▲ 164	
<b>固定資産</b>	<b>3,245</b>	<b>3,153</b>	<b>92</b>	
有形・無形固定資産	1,701	1,695	6	設備投資：141億円、為替換算影響：9億円 減価償却：△137億円、除却等：△7億円
投資有価証券	1,296	1,215	81	増加理由：株価上昇、円安による為替換算影響など
その他の資産	248	242	6	
<b>資産合計</b>	<b>5,366</b>	<b>5,306</b>	<b>60</b>	
<b>負債</b>	<b>2,613</b>	<b>2,585</b>	<b>28</b>	
買掛債務	504	403	101	
有利子負債	1,700	1,746	▲ 46	
その他	409	436	▲ 27	
<b>純資産</b>	<b>2,753</b>	<b>2,721</b>	<b>32</b>	
株主資本	2,856	2,917	▲ 61	自己資本比率 2009年9月末 49.7% 2009年3月末 49.9%
評価・換算差額等	▲ 187	▲ 268	81	増加理由：株価上昇、円安による為替換算影響など
少数株主持分	84	72	11	
<b>負債・資本合計</b>	<b>5,366</b>	<b>5,306</b>	<b>60</b>	

# 連結 2009年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書

	2009年度 第2四半期累計期間	2008年度 第2四半期累計期間	増減
<b>営業キャッシュフロー (a)</b>	<b>121</b>	<b>231</b>	<b>▲ 110</b>
税前利益	▲ 36	188	▲ 224
減価償却費	137	135	2
持分法投資損益	▲ 25	▲ 108	84
持分法適用会社からの配当金受取額	43	68	▲ 25
運転資金等	▲ 49	6	▲ 56
法人税等支払額	51	▲ 58	109
<b>投資キャッシュフロー (b)</b>	<b>▲ 157</b>	<b>▲ 210</b>	<b>53</b>
設備資金	▲ 150	▲ 199	49
投融資資金等	▲ 7	▲ 11	4
<b>財務キャッシュフロー</b>	<b>▲ 88</b>	<b>▲ 17</b>	<b>▲ 71</b>
借入金・社債増減	▲ 50	23	▲ 73
配当金支払	▲ 38	▲ 40	2
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	▲ 6	6
<b>現金及び現金同等物の増減</b>	<b>▲ 124</b>	<b>▲ 3</b>	<b>▲ 121</b>
連結追加・合併による増加額	8	1	7
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>415</b>	<b>371</b>	<b>44</b>

【単位：億円】

# 天然ガス系化学品

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績・予想)			増減		
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	上期	下期	通期
売上高	880	629	1,509	551	665	1,216	▲ 329	36	▲ 292
営業利益	9	▲ 57	▲ 49	▲ 42	▲ 21	▲ 62	▲ 50	37	▲ 14

## 2009年度 上期(実績)

### ➤ メタノール

新規プラント稼動に備えたプレマーケティングで販売数量増加も、平均市況(2009年1~6月)が前年同期の470ドルから170ドルに下落し、大幅減収。

持分法利益も大幅減益。

### ➤ メタノール・アンモニア系化学品

需要低迷による販売数量の減少に加え、アンモニア装置の長期停止の影響もあり、前年同期を大きく下回る。

### ➤ 酵素・補酵素類

コエンザイムQ10は、輸出減少を国内販売数量の増加で補うも、引き続き低調に推移

### ➤ 天然ガス・エネルギー販売

原油価格が前年同期の半値以下となり大幅減益。

## 2009年度 下期(予想)

平均市況が上期実績を50ドル程度上回り、増収の見込み。持分法利益も上期を上回る想定。

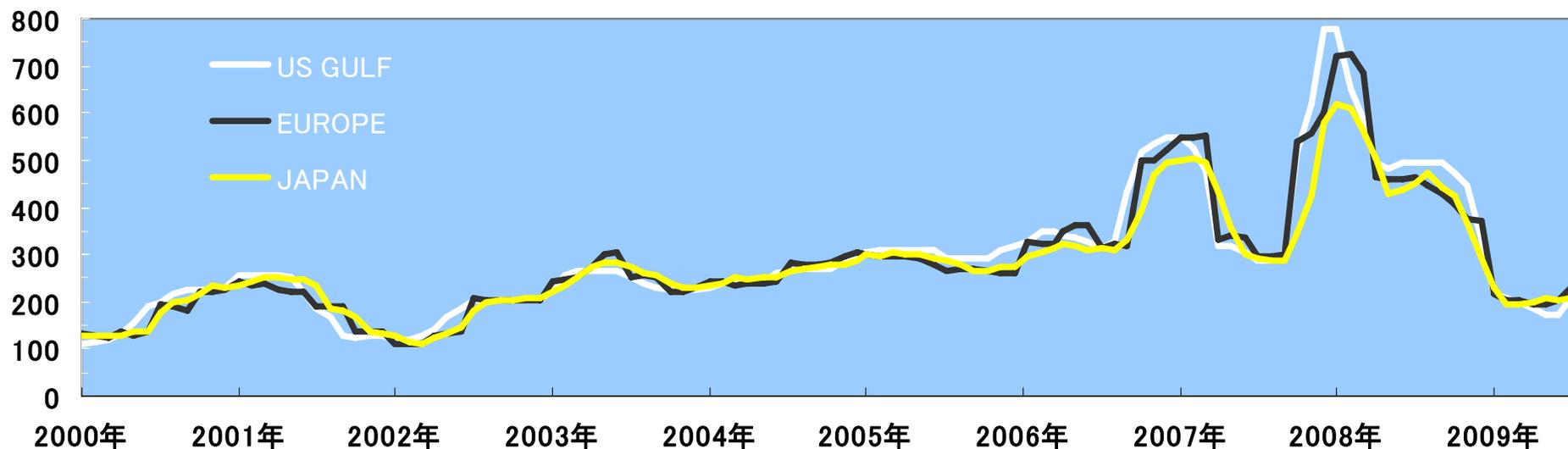
需要は徐々に回復を続けるが、黒字化には至らない想定。

上期と同様の基調が続く見込み。

原油価格の上昇で若干の改善を想定。

# 天然ガス系化学品

## メタノール価格の推移



### (2010年の展望)

需給動向: 需要面は、化学品用途需要の回復に加え、中国の燃料用途需要の伸長もあり、世界全体で増加。

供給面は、ブルネイとベネズエラ(各85万トン)、オマーン(100万トン)、エジプト(130万トン)の新規プラント稼動があるも、需要増により概ね吸収される見込みであり、今後も中国の石炭原料プラントが、市況の上下に応じて再稼動と停止を繰り返すと想定。

⇒ 価格動向: 引き続き中国の石炭原料プラントが調整弁となり、現行の原油価格水準を前提として、市況は250～300ドルの範囲で変動すると想定。

# 天然ガス系化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタノール	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ベネズエラ 85万t/y 建設中 (2010年2Q稼動予定)</li> <li>ブルネイ 85万t/y 建設中 (2010年2Q稼動予定)</li> <li>◇ 重慶 計画中止</li> </ul>	
スピログリコール(SPG) SPG-PET 「ALTESTER®」	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 水島工場 1,500t/y (併産プラント) 2009年7月 商業運転開始 ⇒ SPGを原料とするSPG-PET「ALTESTER®」は、食品・電子部品の包装材料として市場開発を推進中</li> <li>⇒ 2010年にはSPG-PETプラントを建設予定</li> <li>⇒ 市場の反応を踏まえ、将来の大型設備建設を検討</li> </ul>	用途> SPG: ポリマー原料、酸化防止剤など DOG: UV硬化樹脂など
特殊アミノ酸	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 新潟工場 2009年4月 完工</li> </ul>	用途> 医薬品中間体
ピロロキノリンキノン(PQQ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 米国で販売開始 ⇒ 市場の反応を踏まえ、将来の大型設備建設を検討</li> </ul>	用途> 健康食品素材 (ブレインフード)

# 芳香族化学品

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績・予想)			増減		
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	上期	下期	通期
売上高	793	428	1,221	441	500	941	▲ 351	72	▲ 279
営業利益	15	▲ 89	▲ 74	▲ 33	▲ 14	▲ 48	▲ 49	75	26

## 2009年度 上期(実績)

### ▶メタキシレンジアミン、MXナイロン

需要低迷に加え、ユーザーの在庫調整が予想以上に長引き、大幅悪化。

### ▶高純度イソフタル酸

前期から続く厳しい競争環境によるマージン悪化に加え、需要低迷による販売数量の減少もあり、大幅減収減益。

### ▶その他特殊芳香族製品

ユーザーの在庫調整などの影響を受け、芳香族アルデヒドなどの販売数量が減少し、減収減益。

## 2009年度 下期(予想)

需要の本格回復を見込み、改善を想定。

厳しい競争環境が継続し、収益悪化の見通し。

需要回復による販売数量増加で、上期を上回る見込み。

# 芳香族化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタキシレン	◇ 水島工場 7万t/y 2009年10月完工 ⇒ メタキシレン誘導品の需要動向を勘案し、 2010年稼働予定	
高耐熱性無色透明 ポリイミドフィルム 「ネオプリム <sup>®</sup> 」	◇ フレキシブルディスプレイ、フレキシブル薄膜太陽電池向けに評価作業が進捗 ⇒ 2012年度の本格商業化(月産10万m <sup>2</sup> )を目指し 市場開発を推進	用途: 透明電極基板 (フレキシブルディスプレイ、光センサー、太陽電池等) 特徴: 高耐熱性、無色透明
高純度ナフタレンジカルボン酸 (PNA)	◇ 水島工場 900t/y 建設中(2010年3月 稼働予定) ⇒ ナフタレンジカルボン酸ジメチルエステル (NDCM)事業の拡大を推進	用途> 液晶ポリマー原料
ガスバリア性接着剤 「マクシーブ <sup>®</sup> 」	◇ 食品包装フィルム用接着剤、酸素バリア性塗料、 包装材料用特殊コーティング剤として実需化 ⇒ 2012年度の本格商業化(年産2千トン)を目指す	用途: 食品包装、工業材料包装ほか 特徴: ガスバリア性を備えた接着剤
新規制振材料 「ネオフェード <sup>®</sup> 」	◇ 市場開発を推進中 ⇒ グレードの多様化により早期事業化を目指す	用途: 制振材料、防音材料 特徴: 振動エネルギーを効率よく吸収する ポリエステル系材料

## 機能化学品

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績・予想)			増減		
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	上期	下期	通期
売上高	726	539	1,264	554	647	1,201	▲ 172	108	▲ 64
営業利益	31	33	64	33	32	65	2	▲ 1	1

2009年度 上期(実績)

## ➤ 工業用無機薬品

過酸化水素は、紙パルプ向けなどの需要低迷により販売数量減少も、販売価格是正効果により、損益は前年同期並み。

## ➤ 電子工業用薬品

半導体・液晶向けともに回復基調に入るも、前年同期の水準には戻らず、海外子会社を含め、減収減益。

## ➤ エンジニアリングプラスチック

PCとPOMは、自動車向けを始めとする需要の不振で減収減益。

PCシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ向けフィルム需要が好調で大幅増益。

2009年度 下期(予想)

過酸化水素などの販売数量増加による改善を想定。

上期と同様の基調で推移する見込み。

PC、POMとも需要の回復により上期を上回る見通し。  
PCシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ向けフィルムの販売数量は増加を見込むが、販売価格の低下を想定。

# 機能化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向
過酸化水素	◇ 中国 江蘇省 張家港 3万t/y 9月完工 (2009年12月稼動予定)
電子工業用薬品	◇ 四日市工場 超純過酸化水素 1万2千t/y 9月完工 (2010年1Q稼動予定) ⇒ 山北工場、佐賀製造所に次ぐ国内3拠点体制を構築 ◇ シンガポール 化学研磨液 1千t/y 建設中 (2010年1H稼動予定) ⇒ 東南アジアにおけるプリント配線板向け需要増大に対応 ◇ 米国 超純アンモニア水 3千t/y 建設中 (2010年稼動予定) ⇒ 米国における半導体向け需要増大に対応
ポリカーボネート	◇ 中国 上海 10万t/y 建設決定 (2012年4月稼動予定) ⇒ 素材生産、コンパウンド、テクニカルサービスの一貫拠点を構築
ポリカーボネート フィルム	◇ フラットパネルディスプレイ向けフィルムの能力増強を検討
特殊ポリカーボネート	◇ 鹿島工場 特殊ポリカーボネート 400t/y 建設中 (2010年2Q稼動予定) ⇒ 光学レンズ・フィルム用途へ展開
ポリアセタール	◇ 海外拠点での増産を検討

# 特殊機能材

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績・予想)			増減		
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	上期	下期	通期
売上高	357	224	581	296	309	605	▲ 61	85	24
営業利益	42	▲ 19	23	28	25	52	▲ 14	44	29

## 2009年度 上期(実績)

### ➤ 電子材料

BT材料は、半導体パッケージ向け需要が回復するも、前年同期を下回る水準に止まり、減収減益。高性能エポキシ材料とLEシートも、販売数量減少により減収減益。

日本サーキット工業は、減収となるも、固定費削減により損益は前年同期比で改善。

### ➤ 脱酸素剤

国内食品分野の競争が激しく、前年同期をやや下回る。

## 2009年度 下期(予想)

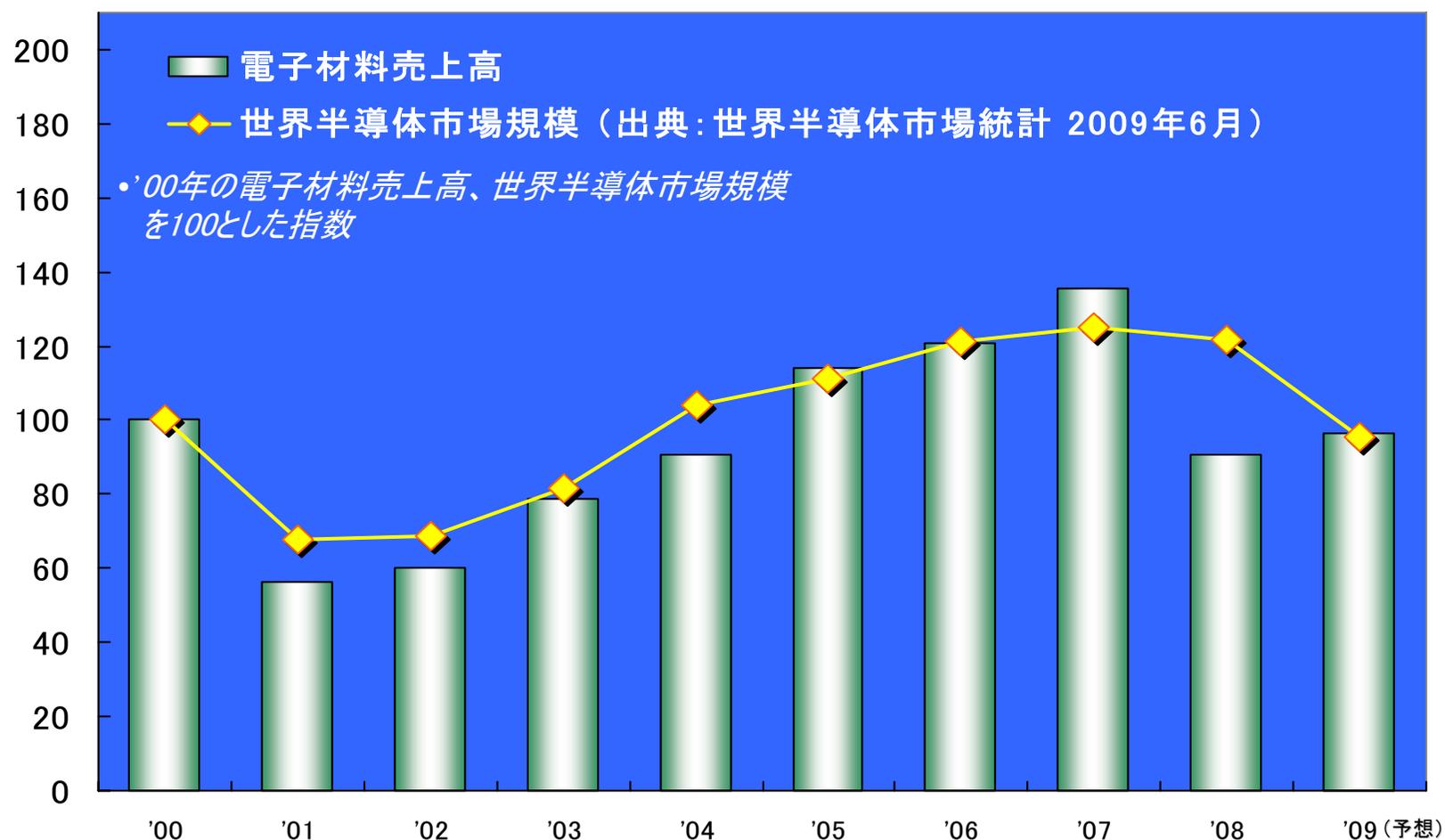
BT材料は、年末から不需要期に入り、販売はやや軟化すると想定。高性能エポキシ材料とLEシートは上期並みの水準で推移する見通し。

日本サーキット工業は、高付加価値品の販売数量増加で改善を見込む。

上期を上回る水準で堅調に推移する見通し。

# 特殊機能材

## 電子材料売上高、世界半導体市場規模の推移



電子材料売上高	100.0	56.4	60.2	78.9	90.6	114.3	120.9	135.4	90.9	96.5
世界半導体市場規模	100.0	68.0	68.9	81.4	104.2	111.3	121.2	125.1	121.7	95.3

# セグメント別 連結 2009年度 通期予想



【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績・予想)			増 減		
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	上期	下期	通期
売上高	2,692	1,784	4,476	1,808	2,092	3,900	▲ 884	308	▲ 576
天然ガス系化学品	880	629	1,509	551	665	1,216	▲ 329	36	▲ 292
芳香族化学品	793	428	1,221	441	500	941	▲ 351	72	▲ 279
機能化学品	726	539	1,264	554	647	1,201	▲ 172	108	▲ 64
特殊機能材	357	224	581	296	309	605	▲ 61	85	24
その他	6	5	11	5	6	11	▲ 2	1	▲ 1
消去または全社	▲ 69	▲ 40	▲ 109	▲ 39	▲ 34	▲ 73	30	6	36
営業利益	96	▲ 127	▲ 31	▲ 11	21	10	▲ 107	148	41
天然ガス系化学品	9	▲ 57	▲ 49	▲ 41	▲ 21	▲ 62	▲ 50	37	▲ 14
芳香族化学品	15	▲ 89	▲ 74	▲ 33	▲ 14	▲ 48	▲ 49	75	26
機能化学品	31	33	64	33	32	65	2	▲ 1	1
特殊機能材	42	▲ 19	23	28	25	52	▲ 14	44	29
その他	3	2	6	2	1	3	▲ 1	▲ 2	▲ 3
消去または全社	▲ 4	3	▲ 1	1	▲ 1	▲ 0	5	▲ 4	1

(参考)

持分法利益	108	39	147	25	45	70	▲ 84	6	▲ 77
-------	-----	----	-----	----	----	----	------	---	------

# 連結 2009年度 通期予想

【単位:億円】

	2009年度 (予想)	2008年度 (実績)	増減	増減率
売上高	3,900	4,476	▲ 576	▲ 12.9%
営業利益	10	▲ 31	41	—
(持分法利益)	(70)	(147)	(▲ 77)	▲ 52.4%
経常利益	20	70	▲ 50	—
税前利益	5	53	▲ 48	—
当期純利益	10	70	▲ 60	—

- 為替前提 90¥/US\$。
- 需要は全体として回復基調を辿るものの、緩慢なペースに止まる。
- 営業損益は黒字転換するも低水準。
- 持分法利益は、下期に海外メタノール会社を中心として改善を見込む。
- 配当金は、中間・期末とも4円。

D/Eレシオ	0.64	0.66	▲ 0.02	▲ 3.0%
ROA*	0.4%	1.2%	▲ 0.8%	▲ 66.7%
ROE	0.4%	2.5%	▲ 2.1 %	▲ 84.0%
1株当たり 当期純利益	2.2円/株	15.3円/株	▲11.1円/株	▲ 72.5%
年間配当金	8.0円/株	16.0円/株	▲ 8.0 円/株	▲ 50.0%

\* 経常利益ベース

# 配当の状況

		2009年度 (実績・予想)	2008年度 (実績)	2007年度 (実績)
1株当り配当金	第2四半期末	4.0円	8.0円	8.0円
	期 末	4.0円	8.0円	8.0円
	合 計	8.0円	16.0円	16.0円
配当金総額	第2四半期末	18億円	37億円	37億円
	期 末	18億円	36億円	37億円
	合 計	36億円	73億円	74億円
1株当り当期純利益	期 末	2円21銭	15円30銭	87円01銭
配当性向(連結)	合 計	362.0%	104.6%	18.4%

# お問い合わせ先

---

三菱ガス化学株式会社

広報IR部(大久保、西村)

TEL 03-3283-5041

FAX 03-3287-0833

<http://www.mgc.co.jp/>

## <見通しに関する注意事項>

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。